# 心をひとつに

# 秋田県人会 九州・沖縄

題字：ばんば三郎

## 太平山からK2、そしてシリアへ　～　開高健ノンフィクション賞　受賞作品



ラドワンさんと小松由佳さん

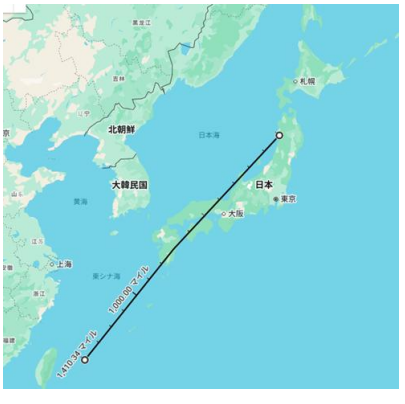
秋田市出身のドキュメンタリー写真家で登山家の小松由佳さん（43歳）が書いた著作「シリアの家族」が2025年11月に発売されました。発売前の同年7月、第23回開高健ノンフィクション賞を受賞しています。

小松さんの祖父母は太平山の麓でコメ農家を営んでいました。田んぼの向こうに青く聳えていた太平山に小松さんが初めて登り山頂から下を見たら町が雲海の足元に見えた事に衝撃を受け登山の道に入ります。

東海大に進学してトレーニングを続け2006年、「ヒマラヤK2（8,611m）」登頂に成功します。頂上から地球が丸く空は黒く見えたと言っています。K2登頂は日本人女性で初めて。植村直己冒険賞と秋田県民栄誉賞を受賞しました。4人に一人は命を落とすという非情な山。下山中に8200m地点で夜、ビバークしました。零下20度、酸素濃度が地上の3分の1という死の危険を乗り越えた事が人生の分岐点になりました。モンゴル、中東と旅を続け、シリアで遊牧民のベドウィンと出会います。遺跡のあるパルミラで小松さんが出会ったのは3世代60人の魅力的な大家族アブドュル・ラティーフ一家です。100頭近いラクダを識別しながら放牧し、オリーブやザクロの果樹園を管理したり、サンドイッチ店を経営しています。しかし、一家はアサド政権の弾圧に巻き込まれ、難民としてゴムボートで命の危険を冒しながら隣国に逃れて行きます。この間、小松さんは、一家16人兄弟の末っ子、ラドワンさんと結婚します。現在は9歳と7歳になった長男次男を1歳の時から背負って取材を続けました。

2024年、アサド政権が崩壊し、夫・ラドワンさんは13年ぶりに祖国へ一時帰国し、爆撃で崩れ落ちて廃虚になった自宅を目の当たりにします。夫のラドワンさんは、2026年、故郷のシリア・パルミラに戻りました。ラドワンさんの兄たちも戻って地雷の危険の中で復興作業を始めているからです。ラドワンさんが彼らしく生きるのは、やはり故郷です。小松さんが取材撮影した写真は2025年12月、「故郷へ帰還するシリア難民」として東京の「ワセダギャラリー」で展示されました。小松さんをインタビューしたのは同じく秋田生まれのディレクター・佐治真規子さん。2025年11月20日午前4時からNHKラジオ第1、ラジオ深夜便で放送されました。

## 膝手術、2,000kmを飛ぶ




地図は日本列島の秋田から沖縄県石垣島を直線で結んでいます。

福岡・秋田県人会の会員のお母さんが福岡市東区の八木病院で昨年11月、右膝を人工関節に取り替える手術をした後、今年2月、沖縄県石垣島の徳洲会病院に飛んで左膝の同じ手術をしました。執刀したのは長嶺リウマチ整形外科クリニック（福岡市東区香椎駅前）の院長・長嶺隆二医師。石垣島出身で熊本市の中高一貫校から九州大学医学部を卒業し米国留学も経験された膝の専門医です。

長嶺医師は日本人の骨格に合った膝・人工関節を開発し、O脚が強い日本人に適した膝の手術方法を確立しています。長嶺医師は極めて多忙な毎日で、お母さんが最短で手術を受けるにはこの方法しかありませんでした。



患者は名医を追いかけると言いますが、移動距離は秋田から石垣島だけでも、片道2,267kmです。秋田に戻ったお母さんは、術後の経過も極めて良く、プロ並みのカラオケを楽しんでいるそうです。

## わらび座、福岡と縁を深く

秋田県仙北市に拠点を置く、「わらび座」は1951年の創立から75年になります。その「わらび座」が今年4月から福岡との絆を深めています。まず、4月11日から19日まで福岡市東区照葉のシアター「そらとうみ」で祭シアターを10回公演しました。380名収容のシアターで東北6県の祭りを再現し観客全員が太鼓や提灯、うちわを持って祭りに参加するイベントでした。シアターには秋田犬保存会福岡県支部の協力で秋田犬の子犬達も訪れ、観客に愛嬌を振りまいていました。

次いで4月から地元のJ1プロサッカーチーム「アビスパ福岡」と福岡市東区香椎浜ふ頭のアビスパ福岡本社で小学生を対象にしたダンススクールが始まりました。



対象は小学生で、わらび座の俳優がダンスを指導し、アビスパ福岡のホームゲームでダンスを披露する予定です。

最後に、6月30日には福岡市中央区天神のアクロス福岡・シンフォニーホールで宮沢賢治原作のミュージカル「真昼の星めぐり」を公演しました。こうした公演は全国で年間500回、わらび座のある「あきた芸術村」には毎年120校の修学旅行が訪れ、旅行体験からわらび座に入る若者が続きます。

## 福岡・秋田県人会、2026年度定時総会、開催

福岡・秋田県人会の2026年度定時総会は4月25日（土）夕方、福岡市博多区博多駅東の居酒屋「どげん海」で開催され、会場一杯の計25名が参加しました。前年度の事業報告や会計・監査報告に続いて2026年度の事業計画が説明されました。

今野正春会長は、目前に迫った5月4日の博多どんたくパレードを説明し、秋には2回目のキリタンポ鍋っこ会を開催すること、昨年初めて開催した女子会について、音頭を取って開催する方を募りたいと話しました。新年会は開催を見合わせると話しました。

総会には秋田県庁人口戦略部長の仲村陽子さんが来賓として出席され、秋田の日本酒5升を差し入れて頂きました。仲村部長は挨拶の中で秋田県の人口減少に正面から向き合うと述べ、ふるさと納税の利用を呼びかけました。鈴木健太知事は自衛隊時代、久留米市で1年間生活したことがあるそうで、くれぐれも宜しくと伝言を頼まれたそうです。

来賓としては劇団「わらび座」から理事の小澤威さんと女優の佐々木亜美さんが参加されました。女優の佐々木さんは由利本荘市出身で福岡市に滞在しながら、ダンススクールの指導に当たっているそうです。新会員としては高橋正大（しょうた）さんが挨拶され、（株）ハイブリッジマネジメントを福岡で創業され、この3月、秋田市に支店を開設して佐賀市の企業を誘致したことなどを紹介されました。

また秋田・青森・岩手3県で作る福岡合同事務所の所長に4月から着任した土門久仁子さんは3県合同アンテナショップ「みちのく夢プラザ」の運営などに当たります。

同じく4月から着任した小倉晃輔(おぐら・こうすけ)さんも新会員として自己紹介されました。小倉さんは神奈川県相模原市出身ですが秋田県庁に入り、これまでメンタルトレーナーとしても活躍しています。尚、福岡・秋田県人会は、来年4月、創立40周年を迎えます。

写真は秋田県人口戦略部長、仲村陽子さん。



## 博多どんたくパレードにナマハゲ4匹

5月4日(月)みどりの日、15時半過ぎから博多どんたくパレードにナマハゲ4匹が登場しました。この日は晴天に恵まれましたが、北西の風が強く最高気温も20度と、この時期としては涼しい気候でした。福岡・秋田県人会会員として初めてナマハゲ役になるスポーツジム経営の川村正伸さんを始め、会員4名が扮しました。北九州市議会議員で県人会会員の菊地公平さんは、高校1年と小学校6年の娘さんと共に参加しましたが、連続10年近いナマハゲの常連です。小学校6年の娘さんは小さい頃、お父さんが扮するナマハゲが理解出来ず、お父さんがナマハゲの面を被ると泣き出していました。

パレードは福岡市の目抜き通り、明治通りの博多座近くを大勢の観客が埋める中「みちのく夢プラザ(北東北3県合同アンテナショップ)」隊の一行には、県人会の横断幕を持った秋田、ハネトの青森、あまちゃんの岩手の各県人会から計100名が参加しました。

4月に着任した秋田県福岡事務所の土門久仁子(どもん・くにこ)所長を先頭に、やはり4月に着任した秋田県福岡事務所の小倉晃輔(おぐらこうすけ)さんも「ナマハゲでーす！」と声を掛けながら、福岡市役所前まで西へ1.3キロを進みます。ナマハゲは沿道を埋め尽くした観客と触れ合いながら進みますが、小さな子供が泣き出すなど、いつもの光景を繰り広げました。前日の3日は雨になり、4日と合せた人出は215万人(主催者発表)と昨年より20万人少なくなりました。どんたくに初めて参加した土門さんは秋田県庁として初めての女性所長ですが、沿道に詰めかけた人出の多さと熱量に驚いていました。




## 熊本秋田県人会懇親会

5月16日(土)夕方、JR熊本駅近く、熊本市西区の田崎酒場「よいち」で熊本秋田県人会の懇親会が開かれました。懇親会の世話役は水俣市の長谷川忠志さんです。

4月から秋田県福岡事務所長に着任している土門久仁子さんや同じく秋田県職員の羽澤勝己さん、佐賀秋田県人会の世話役の明石穣さん、福岡・秋田県人会会長の今野正春さんなど計17名が集まりました。秋田県庁から沢山の日本酒の差し入れがあったほか、イナゴの佃煮やイブリガッコも届けられました。

会の長老で熊本県阿蘇郡山都町に住む佐藤昭二さん(83歳)が会場で交わされる自由闊達で正調の秋田弁に驚きながら、暫くぶりの再会と参加した会員の健康を祝って乾杯の音頭を取りました。土門所長は挨拶の中で初めて熊本市を訪ねて熊本城を見学したこと、熊本秋田県人会の会員の皆さんにも、北東北三県合同アンテナショップ・みちのく夢プラザに来て欲しいと呼びかけました。

羽澤さんは熊本でも北東北の物産販売をすると話されました。今回の初参加は玉名市の村上理智子さんで玉名温泉に来て欲しいと呼びかけました。



今年は熊本地震から10年の節目になります。地震直後、全国組織のfacebook秋田県人会から24万円の義援金が贈られ義援金は熊本城の復興資金として寄付されました。

また元オフコースメンバーで秋田出身のシンガー・ソングライター、松尾一彦さんが熊本市でライブを開催した際は熊本秋田県人会の会員を無料招待して頂きました。プロバスケットボール、秋田ノーザンハピネッツとも熊本での応援から絆を深めています。

懇親会は、およそ2時間半でお開きになりましたが、恒例の2次会は熊本生活の長い西里晃子さんが幹事役で大変に盛り上がったそうです。

## 秋田県人会は毎年3月と6月に慰霊します

6月23日は沖縄慰霊の日です。糸満市摩文仁の丘の平和祈念公園では、沖縄県主催の沖縄全戦没者追悼式が開催され、沖縄は平和への祈りに包まれます。沖縄県民の4人に1人が命を落としたとされる沖縄戦が終結した日です。今年で81年が経過します。秋田県人沖縄会は、一足早く6月15日に宮城由美子・会長を始め会員が摩文仁の丘にある秋田県の慰霊碑、「千秋の塔」を訪ねました。梅雨が明けておらず、あいにくの雨の中ではありましたが、4人で手を合わせて平和への感謝と祈りを捧げました。

これより前、3月16日午前9時半から沖縄県糸満市の摩文仁の丘にある秋田県千秋の塔前で秋田県の戦没者追悼式が営まれました。追悼式には秋田県遺族連合会の阿部勇会長を始め17名と秋田県人沖縄会の宮城由美子会長など3名が供花と共に参列しました。



遺族連合会は15日に秋田を出て羽田経由で那覇に到着していました。この日は沖縄らしい青空が広がる天候で、参列者は1945年に米軍との地上戦が行われ秋田県出身者を含む多くの犠牲者を出した沖縄戦に思いを馳せていました。

遺族連合会の一行は追悼式の後、ひめゆりの塔も訪れた後、17日は那覇から関西空港経由で、三重県に移動し伊勢神宮参詣や二見浦巡拝を経て18日、秋田に戻りました。

## 秋田県人沖縄会が居酒屋「花より」畠山さんの送別会

5月10日（日）那覇市前島のタイ料理「ガパオ・キッチン」で、秋田県人沖縄会が長い間、模合や懇親会を開催していた居酒屋「花より」の女将・畠山法子さんの送別会を開催しました。送別会には会員10名が参加し、畠山さんとの別れを惜しみました。



畠山さんは、30年にわたり「花より」を営み、キリタンポ鍋にハタハタ、じゅんさい、秋田の地酒などを提供して来ました。

毎月の模合の会場を支えて頂きましたが、今回、畠山さんが八峰町の実家に戻る事になり、閉店されました。秋田県人沖縄会は、このところ、参加者が増えていて、宮城由美子会長は毎月の模合など会合の新しい場所を検討しています。

## 古賀エイさんを偲ぶ



佐賀秋田県人会会員の古賀エイさんが2024年7月に亡くなられました。享年84歳でした。

古賀さんは、旧姓、松永さんです。秋田県の旧由利郡矢島町の呉服商に生まれ、秋田市の聖霊高校、聖霊短大に進みます。短大へ佐賀市から来ていた数学教師に見初められ、卒業と同時に結婚して佐賀市で住むようになりました。佐賀市でも着物の仕事を続け佐賀市白山町で1989年から着物のレンタルブティック「マイン」を営んでいました。

短い音声動画も残っていますので、下記URLで、ご覧下さい。
https://vimeo.com/237053608

古賀さんはこの中で、「着物を来て、有難うと出て行く。世の中で一番、楽しい事。着物が役に立つならそれだけで嬉しい。」

2017年、古賀さんは佐賀市の若手経営者に、30年間大切に保管していた着物約300着を譲ります。若手経営者の店は佐賀市呉服元町「ハレノヒ」、写真スタジオや結婚式の演出まで手がけています。

## 新体操の指導者、高橋亜季さんがラジオに出演



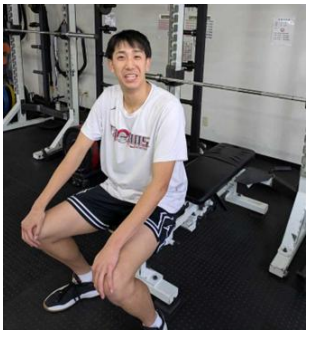
「林田スマのお母さんにバンザイ」は、福岡市に本社を置くRKBラジオで28年続く長寿番組です。フリー・アナウンサーの林田スマさんの司会で毎週土曜日、午後5時5分から15分間、放送しています。

林田さんはフリー・アナウンサーを続けながら大野城まどかぴあ館長を28年間続け、国や地方、企業の審議委員や役員を多数務める傍ら、北海道から沖縄まで全国で講演活動を続けています。これまでの講演回数は延べ約2000回、1日4回の講演をしたこともあります。

その番組「林田スマのお母さんにバンザイ」に福岡・秋田県人会会員で新体操指導者の高橋亜季さんが4月4日（土）に登場しました。高橋さんは小さい頃バレーを習いたいと思っていましたが、新体操に出会ってからロシアなどの指導者から技術を学び、2007年の秋田国体・少年女子団体を優勝に導いて五輪強化指定選手にもなりました。現在は東京都や神奈川県川崎市、福岡市などで3歳から中学生を対象に新体操教室を開いています。

番組では高橋さんを新体操に向かわせた秋田市にいる高橋さんのお母さんについて歌と、お酒、旅行を楽しむ前向きで活動的な姿などを紹介しています。写真は、収録中のRKBスタジオでの林田さんと高橋さんです。

## ノーザンハピネッツU15から福大大濠そして青学へ



福岡・秋田県人会会員の川村正伸さんが経営するトレーニングジム「バーシティウエイトルーム」（福岡市博多区）で、福岡大学大濠高校のバスケットボールチーム選手、加賀屋利温（としあつ）さんが2月25日、トレーニングに励んでいました。二人は、川村さんが秋田市でジムをしていた時代からの間柄です。

加賀屋さんは、秋田市立山王中学校時代に秋田ノーザンハピネッツU15で活躍し、福大大濠に進学して寮生活をしながら、バスケットボールの技術を磨いてきました。

身長193cm体重85kgの恵まれた体格を生かして、全国トップの高校バスケットボールチーム、福大大濠でSFと呼ばれるポジションを守りました。

4月から青山学院大に進みましたが、その先は米国での活躍を目指しています。

## キャナルシティ博多、ラーメンスタジアムに大館の錦&うみさと

ミシュラン掲載店の系列である『鶏白湯(とりぱいたん)らーめん錦』(1994年創業の秋田県大館市にある『らーめん錦』の系列店)が、『鶏白湯らーめん錦』として4月17日、九州に初進出しました。

『らーめん錦』は、アメリカにあるグループ店舗『MENYA ULTRA』が「ミシュランガイド カリフォルニア」に2021年から4年連続で掲載されたことでも一目置かれる存在です。

自慢は、比内地鶏を含む大量の鶏ガラを圧縮鍋で炊いた濃厚な鶏白湯スープ。ラーメンスタジアム限定メニューの『伊勢海老薫 秋田濃厚鶏白湯味噌らぁめん』(1,480円)がお薦めです。






一方、こちらは福岡市中央区赤坂1丁目11－1、プロスパー赤坂1階の「うみさと」です。オーナーは由利本荘市出身の村上弥さん。昼食の営業時間を少し拡大しました。昼は11:30～14:00でしたが、ラストオーダーが14時を14時30分にされました。朝食は8:00～10:30、夜は17:30～23:00です。村上さんは、昼と夜を担当しています。

event

**沖縄**

秋田県人沖縄会:模合は不定期で開催します。
日時、場所が決まり次第、ご案内します。

**福岡**

福岡・秋田県人会:秋に2回目のキリタンポ鍋っこ会を開催します。
日時、場所が決まり次第、ご案内します。

福岡・秋田県人会から年会費1,000円、納入のお願いです。
振り込みは、ゆうちょ銀行を利用します
記号　17410　　番号　47046051
福岡・秋田県人会　宛




他金融機関からの振り込みの場合
[店名] 七四八 (読み ナナヨンハチ)
[店番] 748 [預金種目] 普通預金 [口座番号] 4704605

募集

会報へのご意見、ご感想、投稿をお願い致します。
宛先は、福岡・秋田県人会、中村靖、
メールアドレス:o-nakamura@mms.bbiq.jpへどうぞ